

ミステリー作家漱石の

謎を解く

百年計画で斃すべき敵の正体

古山和男 著

【帝京大学 創立60周年(2026年6月)企画】

漱石の謎

「文学の形式はF+f」

「敵を百年計画で斃す」の意味は何か。

日露戦争の戦死者、霊が現れる能楽の夢幻能に手がかりが。『草枕』の那美も『三四郎』の美禰子も、亡霊の「迷女」だった!!

帝京新書 005

夏目漱石の『坊っちゃん』の主人公は「明治天皇」だった——と正体を突き止めた著者の古山和男氏。本書は漱石をミステリー作家とみなして、漱石が述べた最大の謎「文学の形式はF+f」「百年計画で斃す敵」に迫る。謎を解く鍵は二つ。日露戦争と夢幻能——。マドンナと考えられてきた「草枕」の那美も「三四郎」の美禰子も実は、亡霊の「迷い女（マドンナ）」だったことが明らかに！

従来の漱石論を覆し文豪の真意を穿つ本書は「漱石研究の事件」です。ミステリーよりも刺激的な〈帝京新書〉は〈帝京大学出版会〉より絶賛発売中。定価1,000円。